

# 銅 概 況

大阪市中央区玉造2丁目28番10号  
加藤金属興業株式会社

## ◎ 2019年5月の国内電気銅建値は下記の通りです。

5月	7日	～	740円/Kg
5月	9日	～	720円/Kg
5月	14日	～	700円/Kg
5月	17日	～	710円/kg
5月	23日	～	700円/kg

2019年5月度は平均で709.4円/kgとなり、前月比56.1円/kgの値下がりとなりました。

### 海外銅価の動き

5月のLME銅相場	5/1～5/30	(安値ドル 5,823.00～6,398.00 高値ドル)
5月のNYC銅相場	5/1～5/30	(安値セント 266.05～283.70 高値セント)

5月度のLME現物は、5/1 \$6,398.00でスタート。LME銅相場は公式値ベースで1日(現地)以来5営業日連続で続落し、この間におよそ4%強値を下げ続けた。8日米通商代表部は2,000億ドル分の中国製品に対する関税を10日より現在の10%から25%に引き上げると正式に通知した。一方、中国商務省も「米国が追加関税措置をとるならば、必要な反撃措置を取らざるを得ない」と声明を出した。非鉄金属相場は、総じて売り圧力が高まっている中での影響が懸念された。両国関係の不透明感は強まる中、更に米政府は中国通信機器最大手ファーウェイと米国企業との事実上の取引禁止を打ち出した。米中関係が相場の動きを牛耳るような状況の中で、月末にはトランプ米大統領は記者会見で「中国は合意したがっているが、米国にはその用意がない」などと述べ、中国・人民日報も強い論調で「中国は米国との貿易戦争で反撃するため、レアアースを活用する用意がある」などと報じたことから、銅相場も全面的に売り越しの展開となった。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2019年1月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,050	23,561	+2.2%	24,237	+2.9%	24,854	+1.9%
全世界地金消費	23,108	23,782	+2.9%	24,413	+2.7%	24,981	+1.8%
全世界需給バランス	-58	-211		-175		-127	

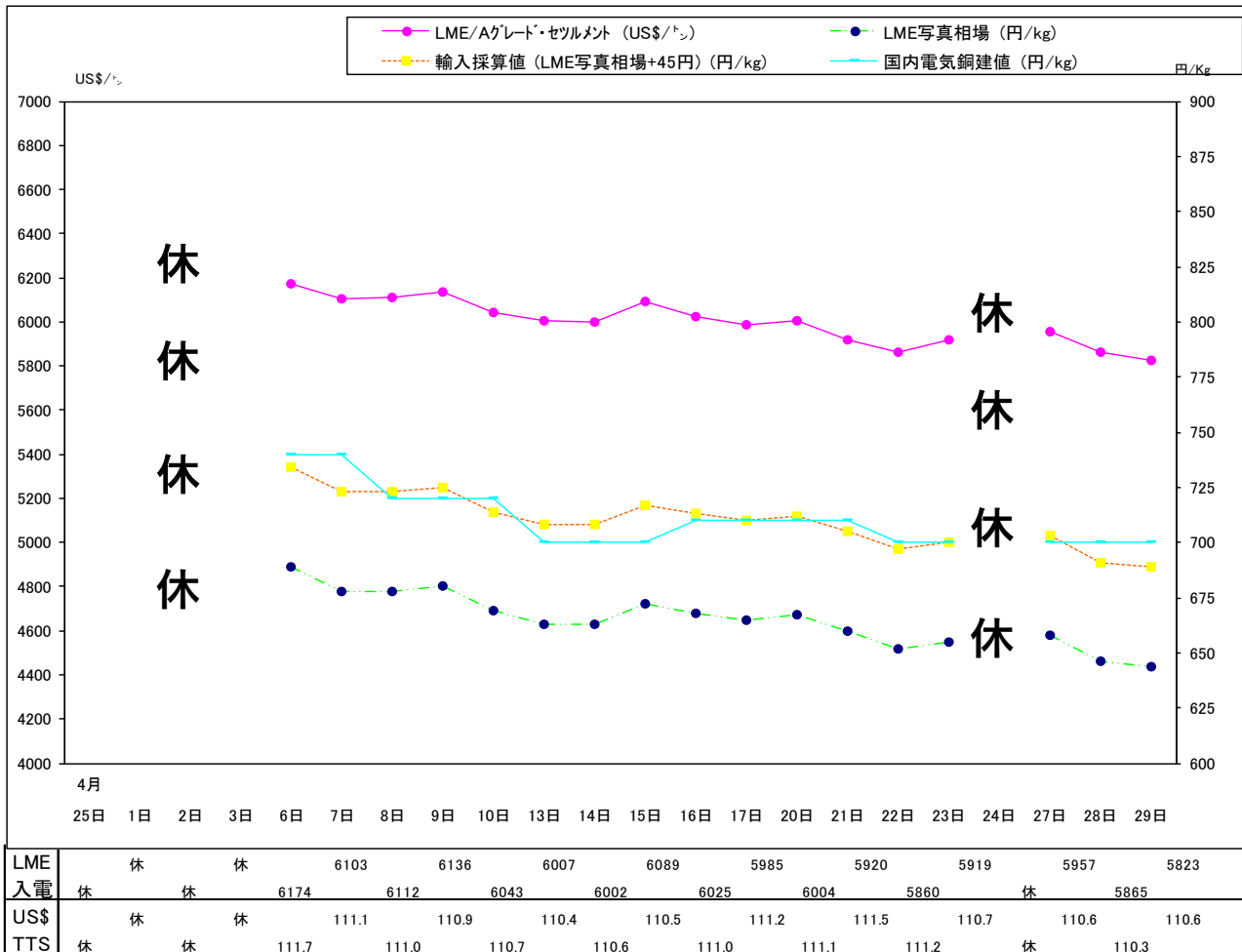
### 先行き短期見通

#### 国内銅価

5月度の国内建値は長期のゴールデンウィークが明けた7日740円/kgでスタート。9日には720円/kg、14日には700円/kgと下げた。17日には為替の動きも相まって710円/kgに戻す動きとなった。しかしながら月末の動きからは、来月も売り基調が強くなると見られ、銅相場は注視する必要がある。

5/30付 LME \$5,823.00、30日付 為替(TTS) 1USD=110.62円で日本円換算計算値644円/kg。2019年6月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り、690円の予想です

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 2019年5月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 5月 7日 ~ 367 円/kg
- 5月 10日 ~ 352 円/kg
- 5月 15日 ~ 349 円/kg
- 5月 22日 ~ 355 円/kg
- 5月 27日 ~ 349 円/kg

平均353.30円/kg

2019年5月は上記の通りで前月比 26.60円/kgの値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場安を受けて引き下げられたもの。

◎ その他の建値

電気鉛	5月	265.50 円/kg	(前月比-	18.60 円/kg)
電気錫 (相対)	5月	3,550.00 円/kg	(前月比-	230.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	5月市中価格	1,450.00 円/kg	~ 1,500.00 円/kg	
銀	4月平均	55,500.00 円/kg	(前月比-	620.00 円/kg)
	5月31日	52,460.00 円/kg		
金	4月平均	4,645.15 円/g	(前月比-	35.10 円/g)
	5月31日	4,571.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

2019年4月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		3月度実績	4月度速報	前月比	前年4月度実績	前年同月比
銅	板	1,398	1,698	21.5%	1,263	34.4%
	条	23,571	21,610	-8.3%	22,816	-5.3%
	管	9,546	9,201	-3.6%	10,185	-9.7%
	棒	2,247	2,180	-3.0%	2,221	-1.8%
	線	262	263	0.4%	285	-7.7%
黄銅	板	621	650	4.7%	608	6.9%
	条	9,251	8,363	-9.6%	8,546	-2.1%
	管	579	516	-10.9%	511	1.0%
	棒	14,628	15,182	3.8%	16,273	-6.7%
	線	2,120	2,254	6.3%	2,820	-20.1%
青銅	板	2,212	1,842	-16.7%	2,940	-37.3%
	条					
	棒	241	220	-8.7%	275	-20.0%
	線	74	57	-23.0%	59	-3.4%
洋白・その他	板	385	429	11.4%	531	-19.2%
	条					
	棒	39	39	0.0%	43	-9.3%
	線	395	456	15.4%	455	0.2%
合計		67,569	64,960	-3.9%	69,831	-7.0%

4月の伸銅品生産速報は、64,960トンで前月比マイナス2,609トン、前年同月比-7.0%となり、前年同月比が5ヶ月連続でマイナスとなりました。

## 電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の19年2月分実績及び3月分推定によれば2月分実績は、主力の建設電販や自動車部門などに支えられ、総計は5万6千706tで前年同月比1.9%増と2ヵ月連続で増加した。

尚、3月の銅電線の出荷推定では、建設電販が好調なもの、自動車が微増に留まり、電力、電気機械と通信が前年を割り込み、総計では5万9千300tで高アベレージも同0.2%減少の見通しとなった。その結果、18年度(4月～翌3月)の銅電線出荷見込み量は、建設電販と自動車、輸出の3部門が好調で伸長し、総計が69万8千287tで前年比1.7%増と2年連続で増加する模様だ。また、2月分の部門別出荷をみると、プラスグループは自動車、建販、輸出の3部門となった。自動車は、国内の生産台数が好調で前年同月比4.2%増と健闘したが、3月は増加も減速する見込み。建設電販は五輪施設、再開発プロジェクト、リア中央新幹線向け需要が好調で2万7千600tと同6.2%伸長は5ヵ月連続の増進で、3月も増加する見通しだ。輸出はスポット需要が発生した事から、同17.3%増と大幅に増えた。マイナグループは通信、電力、電気機械、その他の4部門で、通信は1月まで連続して増加していたものの、2月には同14.1%減と大きく減少。電力は電力会社の投資が鈍化。保守メンテが主流で5.3%減。電気機械は、米中貿易摩擦と中国経済の減速が響き、機器用電線が下降し同5.2%の減。その他内需も同2.1%減と3ヵ月連続で下降した。

### 2019年2月分(実績)・2019年3月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	2月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	3月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	2月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	669	▼14.9	▼14.1	800	19.6	▼6.2	1,206	(▼15.1)	▼12.5
電力	(2,177) 3,819	(45.7) 2.1	(12.0) ▼5.3	(2,600) 4,300	(19.4) 12.6	(24.5) ▼7.0	1,552 4,810	(35.7) 9.6	(22.5) 0.5
電気機械	(399) 11,699	(9.0) 4.0	(▼22.4) ▼5.2	(700) 11,700	(▼19.6) 0.0	(▼7.0) ▼10.9	377 15,902	(7.1) 4.0	(▼25.3) ▼6.8
自動車	(181) 7,454	(53.4) 5.6	(75.7) 4.2	(700) 7,700	(▼19.6) 3.3	(▼7.0) 0.4	692 36,114	(34.1) 6.6	(62.1) 8.0
建設・電販	(264) 27,576	(1157.1) 5.6	(1550.0) 6.2	(700) 28,100	(▼19.6) 1.9	(▼7.0) 4.9	173 31,575	(861.1) 3.6	(1135.7) 4.2
その他内需	(27) 3,961	(▼68.2) ▼2.4	(▼22.9) ▼2.1	(700) 4,500	(▼19.6) 13.6	(▼7.0) 4.9	34 6,961	(▼57.0) ▼3.0	(▼17.1) 6.8
内需計	(3,048) 55,178	(46.3) 4.1	(16.7) 1.6	(3,300) 57,100	(8.3) 3.5	(16.2) ▼0.4	2,828 96,568	(34.1) 4.3	(25.5) 3.3
輸出	(1) 1,528	(▼99.7) ▼16.3	(▼99.7) 17.3	(400) 2,200	(39900.0) 44.0	(▼9.3) 5.7	5 4,762	(▼97.1) ▼27.1	(▼6.5) 2.6
合計	(3,049) 56,706	(26.0) 3.4	(5.0) 1.9	(3,700) 59,300	(21.4) 4.6	(12.7) ▼0.2	2,834 101,330	(24.3) 2.2	(18.3) 3.3
心線販売	(1,478) 28,449	(▼2.1) 6.6	(27.7) 1.5	(1,000) 28,700	(▼32.3) 0.9	(▼20.0) ▼1.4	411 20,367	(0.2) 5.2	(30.5) ▼7.0

(注) ( )内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。  
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

### 2019年2月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,604	6.7	▼0.7	3,512	3.8	▼0.1	
巻線	11,091	5.5	▼2.9	11,870	6.0	1.7	
機器用電線	3,440	0.6	▼3.8	9,716	▼0.1	▼8.3	
通信用電線・ケーブル	1,283	▼5.9	▼6.1	2,901	▼5.9	▼7.0	
電力用電線・ケーブル	20,262	0.5	2.3	21,276	▼2.7	5.0	
被覆線	10,861	7.0	9.3	15,192	3.6	7.1	
輸送用電線	6,165	5.6	4.8	36,864	4.7	6.1	
銅電線計	56,706	3.4	1.9	101,330	2.2	3.3	
	通信用電線・ケーブル	77	▼1.3	18.5	262	▼1.1	17.5
	電力用電線・ケーブル、被覆線	2,889	▼4.7	5.9	3,389	▼4.0	5.7
	計	2,971	▼4.7	6.1	3,672	▼4.4	6.2
アルミ電線計	3,049	26.0	5.0	2,834	24.3	18.3	
うち、光ファイバケーブルコード	-	-	-	4,867	6.0	36.9	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場、大型連休明け第1週は、連休中1週間でLME在庫が23.2万MT増加し相場下落の大きな要因となったことを受け、米中貿易摩擦、イランの核合意義務の一部停止、北朝鮮の短距離ミサイル発射等リスクオフから非鉄全体が軟調の中アルミは、サポートライン\$1,800を維持しながらのスタートとなる。第2週、予定通り対中関税が引き上げられたものの交渉の進捗が良好との観測もあり、影響は限定的。中国山西省にあるXinfu社のアルミナ製錬所（年産：280mMT）で環境問題から生産ラインの即時停止を地方自治体から受けており、サポート材料となってじり高となる。第3週、米中通商会議での対立の激化・長期懸念が高まり非鉄相場は総じて軟調に推移。センチメントが悪化する中、アルノルテ・アルミナ製錬所を巡る裁判で生産再開を認める判決が下され相場は大幅下落。同製錬所の稼働率は、二ヶ月以内に50%⇒80%前後に引き上げられる予定。第4週、米中貿易戦争、英国Brexitの混迷など先行き不透明の中、相場の重しとなっている米中通商問題について、トランプ大統領の発言を受けて米中間の対立は長期化が避けられない雰囲気となっている。また、今週から始まった7～9月のPr交渉は東南アジアの上昇を背景に\$120からスタート。アルミ相場当面は\$1,800を中心に狭いレンジでの推移が予想される。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2019年 5月積 1,850.00～1,862.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2019年 5月積 218.20～219.60 円/kg
- ・NSP 2019年 3月 261.40 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2019年 4月～6月 270.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'19年3月	'19年4月	'18年4月
月生産	*2,341.0	2,263.0	2,293.0
平均日産	*75.5	75.4	76.4

(\*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

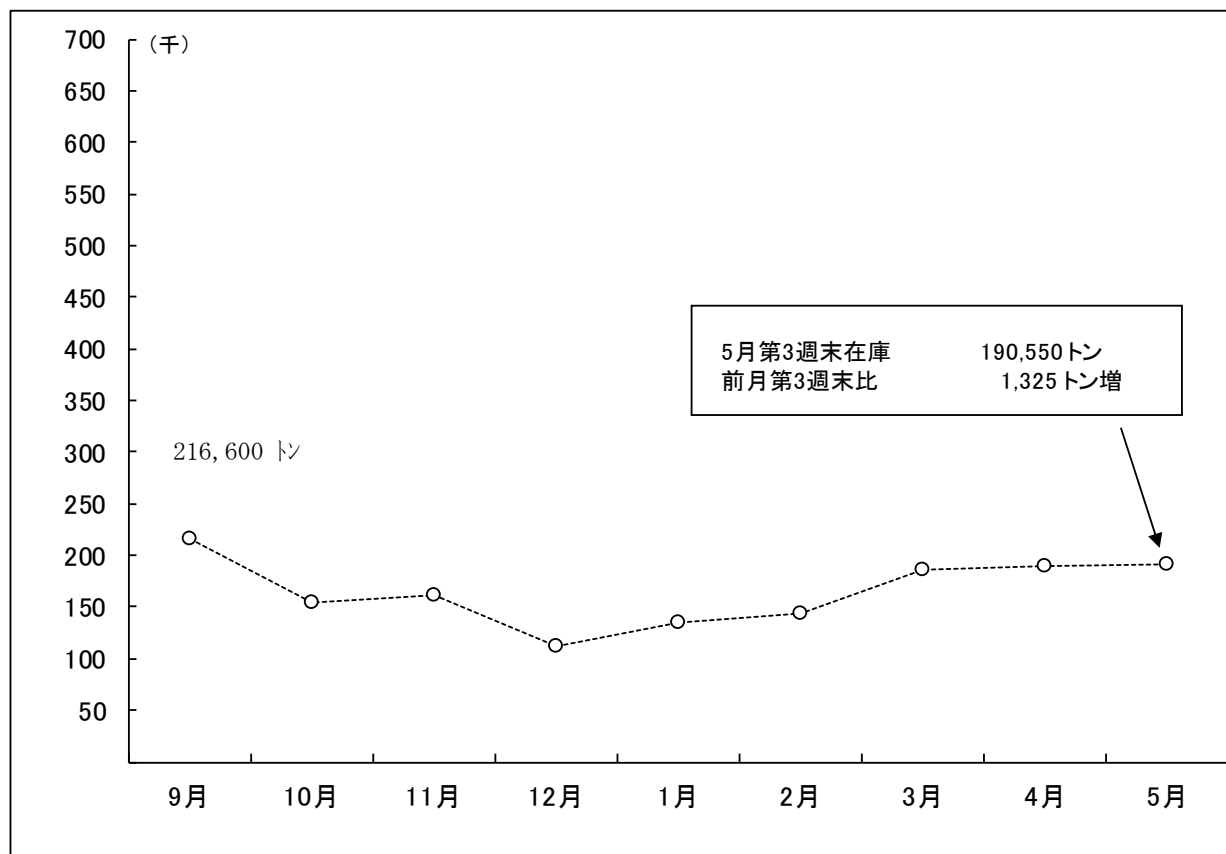
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2019年1月	2019年2月	増減	2018年2月	増減
横浜	151,100	155,900	+4,800	121,700	+34,200
名古屋	148,400	148,800	+400	135,300	+13,500
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	314,500	319,700	+5,200	272,000	+47,700

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ L M E 銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX 在庫 (第3週末)

・19年5月17日現在 32,174 S T 前月比 5,323 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・19年3月末 94,493 トン 前月比 7,101 トン減

◎ 伸銅品生産実績

・19年3月確報 67,569 トン  
・19年4月速報 64,960 トン 前月比 96.4 %

◎ 電線出荷実績

・19年4月速報 59,600 トン 前月比 100.5 %

◎ 軽圧品生産実績

・19年 4月	板 類	104,061 トン		
	押 出 類	62,731 トン		
		<hr/>		
		166,792 トン	前月比	97.2 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。